

## 四日市大学 令和元(2019)年度に実施予定の研究テーマ一覧

〈原文ママ〉

(学部別・五十音順・敬称略)

学部	連番	氏名	研究テーマ	概要
総合	1	岩崎 恭典	小さな自治の具体的形成方策	2025年の団塊の世代の後期高齢者入りを控え、地域包括ケアシステムの形成が繰り返し叫ばれることから、ようやく、小さな自治の必要性について理解が深まってきた。しかしながら、依然として、福祉領域での取り組みと捉えられることが多く、総合生活支援事業や介護予防事業まで、自治体あるいは社会福祉協議会任せとする風潮も依然として存在する。そこで、今年は、地域での担い手、主体形成の契機となりうる、コミュニティスクールと地域包括ケアシステムとの関連を模索していくこととしたい。具体的には、主体形成の場として継続的にかかわっている、三重県鈴鹿市、亀山市をフィールドとして、支援の仕組みを実践としていくこととしたい。
総合	2	岡 良浩	ツーリズム・おもてなし経営に関する研究	(1)おもてなし経営に関する研究 昨年度受託研究として行った三重のおもてなし経営企業選受賞企業をはじめとして、広く「おもてなし経営」の概念整理と事例研究をすすめる。 (2)ツーリズムとまちづくり・担い手育成に関する研究 昨年実施したクルーズ船の経済波及効果や、特定プロジェクト研究Aのツーリズム研究では、大きく①ツーリズムがまちづくりなどの基盤整備と密接に関係していること②着地型観光の開発にあたっては、担い手の育成が重要であることが、明らかになった。今後はそれを踏まえて考察を深める。
総合	3	奥原 貴士	組織再編成功企業の財務特性－のれんと財務特性に着目した実証分析－	本研究の目的は、M&Aや子会社化などの組織再編によりのれんを計上した企業のその後の将来業績と、企業の財務特性との関係を明らかにすることである。 そして、のれんと将来業績との関係に着目し、組織再編前後の財務特性が将来業績に及ぼす影響を調査するために実証分析を行う。すなわち、組織再編やその後の追加投資に関して、どのような財務特性をもつ企業が効率的な投資を行っているのか、逆にどのような財務特性をもつ企業だと非効率的な投資を行ってしまうのかということを検証する。 本研究の結果から、M&Aに成功した企業はどのような財務特性を有しているのかが明らかになるだろう。

学部	連番	氏名	研究テーマ	概要
総合	3	奥原 貴士	国際会計基準により資産計上される開発費に関する研究	本研究の目的は、国際会計基準のIAS 38 (国際会計基準第38号) により資産計上された開発費と将来業績との関係を実証的に調査することである。具体的には、資産計上されている開発費すなわち開発資産と、将来利益率の水準・将来利益率の不確実性との間にどのような関係があるのかを明らかにするために実証分析を行う。 加えて、費用として計上される研究開発費と将来利益率の水準・将来利益率の不確実性との関係についても分析を行う。そして、開発資産と研究開発費との間で、将来利益率の水準・将来利益率の不確実性との関係に相違があるか否かにも着目する。 続いて、開発資産と研究開発費の価値関連性に関する実証分析も行う。
総合	4	加納 光	「中国語話者の日本語学習上の母語干渉についての一考察」	中国語母語話者が日本語を学習する上で生じる母語干渉の事例について幾つか取り上げ、それぞれの事例が如何なる原因でその母語干渉を引き起こすのか明らかにした上で、その原理を学習者に理解させることにより、それぞれの母語干渉による影響を最小限に抑え、学習者の効率のよい日本語学習の一助とすること、これが本研究の目的である。
総合	5	鬼頭浩文	①災害支援体制の持続と、地域防災に中高大生が貢献する仕組みの地域社会への実装	<ul style="list-style-type: none"> <li>・三重県と連携して、広域防災拠点の運営に、学生が貢献する仕組みを実装する</li> <li>・三重県広域防災拠点での訓練</li> <li>・四日市市と連携して、学生が支援物資ロジスティクスに貢献する仕組みを構築する</li> <li>・四日市市消防本部と連携して、避難所運営に貢献する仕組みを実装する</li> <li>・県内社協と連携して、大学生が災害ボランティアセンター運営に貢献する仕組みを実装する。</li> </ul> <p>以上の研究を通して、県市町の地域防災計画、四日市市内各地域の地区防災計画、四日市大学事業継続計画に成果を反映させ、実効性を確保するための訓練を実現していきたい。</p>
総合	5	鬼頭浩文	②「四日市大学減災・復興支援センター」の設立と、大学の事業継続計画の作成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学に減災と復興支援を組織的に行う組織を設置する</li> <li>・大学の事業継続計画(BCP)の策定</li> <li>・行政と連携して大学が地域防災に貢献する仕組みについて検討する</li> <li>・大学の実践的な防災訓練を実施する</li> </ul> <p>以上の研究を通して、大学の事業継続と地域防災への貢献について、実効性を確保するための訓練を実現していきたい。</p>

学部	連番	氏名	研究テーマ	概要
総合	6	小泉大亮	虚弱高齢者の歩行時における運動器評価の研究	本研究は、虚弱高齢者の介護予防を目的として、機能的自立維持に必要な運動器の安定性を評価する指標を作成し、その指標を用いて機能的自立維持に必要な基準値を検討する。指標の作成にはスマートフォンに内蔵されている加速度センサーを利用して評価する。運動器の状態は、アンケートによる日常生活活動動作(ADL)や転倒不安・転倒状況の調査、運動のパフォーマンスは歩行動作、椅子からの立ち上がり、階段昇降、移動時の繰り返し動作から検討する。
総合	7	ゴードン・リース	Utilizing Performance-Assisted Learning (PAL) in a Compulsory Reading Course to Encourage Expressive Speech and Build Confidence	The research I plan to do this year seeks to measure how different forms of Performance-Assisted Learning (PAL) such as radio drama, reader's theatre, short skits and role-play can be utilized to build confidence and encourage expressive speech in reading classes. Prior to the introduction of PAL activities, students will make an initial presentation at the beginning of the course and their use of body language, voice projection, voice inflection and eye contact will be measured. Several different PAL activities will then be carried out over the course of the semester and then the course will conclude with a Pecha Kucha-type presentation. The initial course presentation will then be compared to the Pecha Kucha presentation to measure any changes in use of these basic presentation skills that have occurred. In addition, I hope to survey students at the end of the course to find out student attitudes towards the PAL activities and try and determine if they had any effect on student motivation and confidence.
総合	7	ゴードン・リース	Assessing Performance-Assisted Learning (PAL) Activities	Much research has been done on the use of performance in the EFL classroom. Performance activities, drama activities in particular, are often extolled for their ability to motivate, build confidence and create a non-threatening learning environment. Many EFL teachers and researchers are convinced of the positive effect that performance can have on language learners. However, it is difficult for teachers to quantify and measure what those effects are, and one area that language teachers struggle with is how to assess performance activities. This research will begin with a literature review on current methods used to assess performance activities. After the initial literature review, a rubric will be developed for use in assessing a radio drama and reader's theatre project in a compulsory reading course.

学部	連番	氏名	研究テーマ	概要
総合	8	小林 慶太郎	①地方自治体におけるマイノリティ政策の導入と展開 ②基礎的自治体におけるミニ・パブリックス導入の課題と可能性	①地方自治体におけるマイノリティ政策の導入と展開 日本では、近年、在住外国人やLGBTなどのマイノリティへの対応が政策課題として認識されつつある。しかしながら実際に独自の取組みを始めた自治体はまだ少数にとどまり、多くの自治体では、手探りの状態であったり、あるいはまったく検討もしていない状態であったりしている。そこで、一部の自治体で既に始められている施策の内容や導入過程を明らかにし、今後の全国各地の自治体へのその展開を展望したいと考えている。 ②基礎的自治体におけるミニ・パブリックス導入の課題と可能性 近年、無作為抽出した市民による「ミニ・パブリックス」といわれる手法によって、民意を捉えていこうとする取組みが、散見される。しかしながら、こうした取組みには多くのコストが掛かることもあり、ルーティン化されることはなく単発の社会実験的な取組みで終わってしまうことが多く、そこで把握された民意が政策にダイレクトに反映されることも少ない。一方で、ミニ・パブリックスを条例で位置づけ公的な取組みとして導入していく基礎的自治体も現われ始めた。そこで、こうした条例によるミニ・パブリックスの導入や、その政策への影響、運営上の課題などを整理し、今後の普及・定着の可能性を展望したいと考えている。
総合	9	高田晴美	女性作家による女性の身体・性と老いの描き方	「アンチエイジング」が叫ばれ、「美魔女」ブームやそれに対する揶揄で騒がれたり、芸能人などが「劣化」したと陰でうわさされたりと、昨今は女性だけでなく男性も含めて、健康寿命だけでなく美貌寿命も伸ばそうと執着することがありふれたこととなった。しかし、こと女性に関しては、老いの兆候を自らの身体に発見し、それに煩悶したり折り合いをつけたり、逆にそれを利用したりすることは、はるか昔からなされてきたことでもあり、女性に課された宿命的な要素でもある。そしてまた、それは容姿という単なる身体の表層の問題だけではなく、おそらくは男性以上に、「性」や「恋愛」等に密接に関わる問題でもあった。これらを女性作家たちがいかに描いてきたのか。円地文子や林芙美子などの文学作品を分析することで明らかにしていく予定である。

学部	連番	氏名	研究テーマ	概要
総合	10	鶴田利恵	イギリスのEU離脱が与える影響	イギリスは、2016年6月に行われた国民投票によって欧州連合(EU)からの離脱を決定した。しかし、その後、離脱後のEUとの条件を巡りイギリス国内での合意形成が難航し、離脱期限である2019年3月29日が延期される可能性がでる事態にまで発展してきている(2019年3月現在)。そしてその間、イギリスに支店や支社あるいは工場を置いていた世界中の企業のイギリスからの撤退も加速している。このような状況は今後も続く予想され、イギリス経済に大きな影響を与えるのはもちろんのこと、EU経済、ひいては国際経済をも直撃する。本研究では、ヨーロッパの統合史上初めてとなるイギリスのEU離脱が、今後のEUの経済と統合の進化および深化にどのような影響をもたらすのかを分析するとともに、国際経済に与える影響を貿易、直接投資の観点から考える。
総合	11	富田与	国連総会麻薬特別セッションの開催と米州の麻薬情勢	米州域内から提示された国連総会麻薬特別セッションのイニシアティブに関し、国際的な麻薬問題における米州に特有な構造とその変動から、米州が国際的な麻薬対策でイニシアティブをとろうとした背景を分析する。 米州域内から提示された国連総会麻薬特別セッションのイニシアティブに関し、国際的な麻薬問題における米州に特有な構造とその変動から、米州が国際的な麻薬対策でイニシアティブをとろうとした背景を分析する。
総合	11	富田与	バンクシーにおける道化性について	バンクシーおよびバンクシー作品に含まれる道化性について、山口昌男の議論などを手掛かりに分析する。
総合	11	富田与	「ポスト事実」を考える手がかりとしての現代アート	「テロリズム」のシミュラクル化に関する研究の延長として、「ポスト事実」状況を現代アート作品を通じて考察することを試みる。
総合	11	富田与	芸術祭による地域振興	地域振興を開催目的に含む芸術祭(映画祭等を含む)に焦点をあて、芸術祭が持つ地域振興に果たす役割を明らかにしていく。
総合	12	永井 博	「戦陣訓」の捕虜言説についての研究	「戦陣訓」の皇国主義的イデオロギーの特質について「戦陣訓」関連の諸文書を視野に入れて闡明し、その観点から「戦陣訓」における捕虜言説について論じる予定である。

学部	連番	氏名	研究テーマ	概要
総合	13	中西紀夫	環境マネジメントの法的一考察 ～ ISO14001を素材として～	<p>この研究テーマを選んだ理由は、四日市大学のISO14001取得の際に、私がプロジェクトチームのメンバーとして関わり、主に環境方針や法規制登録の原案作成を担当したことがきっかけである。本学はISOの取得時も取得後も外部のコンサルタントを使わず維持するという形にしたため、私も含めたプロジェクトチームのメンバーの3名はISO取得前に内部環境監査資格を取得した。なかでも私は、それ以降も中心的な役割を担うことになり、ISO14001規格の1996年版から2004年版への移行時にも、学長からの依頼で環境管理マニュアルの変更箇所をまとめ研修会の講師を担当することとなった。本学は全教職員が一致団結して9年間、ISOを維持した。最後の4年間は、私が環境管理責任者としてISOに関してはずべての部分で中心的な役割を担うことになったが、学外からのご要望に対しても積極的に協力させていただいた。具体的には、国内外の大学での講演活動や地元市役所でのISO14001の内部環境監査協力などである。また、大学でも「環境マネジメント法」というISOの実践的な法処理技術の取得を目的とした講義を長きにわたり担当し、受講生からも公害防止管理者やISO14001の審査員の合格者を出している。ISOも今は2015年版となったが、今でも物質循環型社会の構築には世界中で影響力のある規格といえるので、私がこれまで蓄積した膨大な資料や実践的な経験はもとより、大学での教育で培ったノウハウもこれからは研究資料として捉え、循環型社会の構築へ少しでも貢献できればと考えているところである。</p>
総合	14	本部賢一	北勢地区における移動制約者と公共交通機関の状況および福祉有償運送の必要性に関する研究	<p>本研究では、三重県北勢地区いなべ市を対象とし、第1に「移動制約者がどこに居て、どんな移動のニーズ(移動目的と目的地)を持っているのか」を明らかにする。第2に、地区内の交通網の整備状況を明らかにする。特に福祉有償運送のライバルとなるタクシーの地区内の運行状況について調査する。第3に、地区内の福祉有償運送の運行状況を調査する。第4に、これらの調査結果をもとに、移動制約者の数、すなわちニーズと、現在提供されている公共交通サービス及び福祉有償運送サービスのバランスを見て、「福祉有償運送サービスのさらなる提供が必要かどうかを見定める」ことが本研究の目的である。昨年度は、地域別移動制約者の分布と移動のニーズに関するデータ収集・集計を行った。本年度は、まず対象地域の詳細な地図(できれば住宅地図レベル)を作成し、次に昨年度調査したデータを地図上に展開していく作業を行う予定である。こうすることで、より視覚的に移動制約者の分布を捉えることができるようになる。さらに同じ地図上に地域内の公共交通整網(鉄道、バス路線、タクシートリップ分布)などを展開する。これらのデータを比較検討することで福祉有償運送サービスのさらなる提供が必要な地域を探ることができるものとする。</p>

学部	連番	氏名	研究テーマ	概要
総合	15	松井真理子	「変化の理論」に基づくアドボカシー戦略の研究	近年、休眠預金制度を契機に注目されている「社会的インパクト評価」の重要な要素とされる「変化の理論(theory of change)」は、NPO等の公益的活動を最終的なアウトカム(インパクト)へと導く、因果関係の体系的な分析ツールとして国際的に認知されている。しかし、日本における「変化の理論」の対象は「個別事業」が中心であり、NPOの重要な機能である「アドボカシー」のインパクトについてはほとんど関心がもたれていない。日本のNPOのアドボカシーは、量的に貧弱であるのみならず、質的研究においても大きく立ち遅れており、市民社会の強化のためにこの課題に取り組む必要がある。このため本研究では、①英米のアドボカシーに関する「変化の理論」研究の到達点の調査、②英米と日本の自治体レベルの市民社会組織(NPO、地域コミュニティ組織)のアドボカシーの実態とそのインパクトの調査と分析、③それらに基づく日本独自の「変化の理論」と「アドボカシー戦略」の構築、④市民社会組織のアドボカシー機能を高めるための中間支援組織の役割の調査と分析を行う。
総合	15	松井真理子	社会的企業・事業型NPOをめぐる実態と政策	近年、社会的企業(またはコミュニティビジネス)についての関心が高まっている。これらに融資を行う市民ファンドや金融機関も現れており、「融資が受けられる経営力のある事業型NPO・社会的企業」を目指すべきだという言説もある。その一方で、コミュニティビジネス・社会的企業とは「社会的課題をビジネスの手法で解決する」と言うにとどまり、その概念は極めて不明確である(一般の企業でも、通常何らかの社会的課題の解決を目指しているはずである)。また、行政の現場では、企業と事業型NPOとは入札等をめぐって熾烈な競争にさらされており、NPOや社会的企業が目指している「市民的なもの」はほとんど無視されている。本研究は、このような問題意識に立って、事業型NPOや社会的企業の「市民的なもの」の実態を調査し、社会的企業や事業型NPOの概念を明確にする。また、行政施策の現状についても調査を行い、社会的企業・事業型NPOのあるべき発展に向けた政策提言を行う。
総合	15	松井真理子	四日市市における食品ロスの削減を目指す、分野横断的SDGs連携モデルの推進とコレクティブインパクトの研究	2019年度に新設された四日市大学の「特定プロジェクト研究」に応募する学内外の共同研究である。食品ロス削減法の成立が見込まれることを背景に、SDGsの連携モデルとして多様な切り口から取り組む。(食品ロスの削減(SDGs12 作る責任使う責任)、温室効果ガスの削減(SDGs13 気候変動)、フードバンクと子ども食堂等(SDGs1 貧困、SDGs2 飢餓)、食育・市民教育(SDGs4 質の高い教育)、多様な主体の協働による地域課題の解決(SDGs17 パートナースhip)) 2019年度は、①四日市市との協働による、四日市市の「食品ロス削減推進計画」の策定への参画、②四日市大学内での食品ロス削減計画の策定、③食品ロスの実態把握及び分野横断的なSDGsの推進の観点からの成果指標づくり等に取り組む。

学部	連番	氏名	研究テーマ	概要
総合	16	三田泰雅	1. 三重県における少子化の現状と課題	1. 三重県少子化対策課が2017年に実施した質問紙調査のデータを二次分析し、三重県における少子化の現状と課題を明らかにする。
総合	16	三田泰雅	2. ポスト成長期における産業都市の社会構造	2. 現代の産業都市における市民活動の概況や社会的ネットワークの特性を明らかにするため、四日市市の市民を対象に質問紙調査を実施する。

学部	連番	氏名	研究テーマ	概要
総合	17	若山裕晃	アメリカ野球マイナーリーグにおけるメンタルトレーニング指導の実態調査	<p>アスリートの競技力向上を目的としたメンタルトレーニングがスポーツ界で広く浸透しつつある。ロンドンオリンピックで28年ぶりに銅メダルを獲得した全日本女子バレーボールチームや、2015年のワールドカップで大活躍したラグビー日本代表チームは、スポーツ心理学者をメンタルトレーニングの専門家として活用した成功例として注目され、関連書籍や報道からは、スポーツ心理学者がチーム及び選手のメンタルスキルを向上させていったプロセスを知ることができる。本年度の研究では、日本で最もポピュラーなスポーツの一つである野球競技におけるスポーツ心理学者の活動状況について、これまでの経緯に踏まえさらに進める考えである。</p> <p>2016年9月、筆者は、ロサンゼルス・ドジャースのアリゾナ秋季教育リーグを視察した。ここでは、シーズンを終えたばかりのマイナーリーグの選手やコーチたちが、大小8面ほどのグラウンドやバッティングケージで黙々と練習に励み、日々の練習メニューの中に、技術やフィジカルのトレーニングと同様にメンタルトレーニングのセッションが設けられていた。それ以来、マイナーチームのメンタルトレーニング指導を担当するドジャース専属のスポーツ心理学者であるAJ Lalonde氏とLeo Ruiz氏と交流を続け、2018年3月には、スプリングトレーニング時のマイナー選手への講義とエクササイズ形式でのメンタルトレーニング指導を視察し、筆者自身もそのプログラムを体験した。同年12月には、チームビルディングプログラムの手法についてレクチャーを受けた。ドジャースは、2015年からメジャーとマイナーにメンタルトレーニング指導者を雇用しており、マイナーチーム担当の彼らは、シーズン中傘下のマイナー6チームを巡回して活動している。このようなアメリカ野球界におけるメンタルトレーニングに関する情報は、日本の野球界においてほとんど知られていない。本年度の研究では、シーズン中におけるマイナーリーグのメンタルトレーニング指導担当者の活動を視察し、マイナー選手達への指導内容について調査を実施する。</p> <p>(参考文献)                  若山裕晃(2017) 日米野球界におけるメンタルトレーニング事情に関する予備的調査. 四日市大学総合政策学部論集、第16巻 第2号、57-62.                  若山裕晃・渡辺英児(2017).野球メンタル強化メソッド. 実業之日本社.</p>
環境	18	前川 督雄	人工生態系の進化シミュレーション	<p>有限不均質な環境条件をもつ人工生態系シミュレーターSIVAを用いて、地球生態系の成熟と地球生命の進化・多様化をシミュレーションする。</p>

学部	連番	氏名	研究テーマ	概要
環境	19	牧田 直子	池沼および海洋に棲息するプランクトンの調査研究	池沼については、北勢地域の池沼においてこれまでCOCの1人1プロジェクトのテーマとして取り組んでおり、引き続き調査を進める。また、輪虫類の分類と形態の記録を進める。海洋については、付着藻類を中心にプラスチックに付着したものを分類する。
環境	20	井岡 幹博	スマホによる環境調査の可能性検証	スマホ, 特にiPhoneのアプリケーションとして, AR(Augmented Reality 拡張現実)技術を利用して, カメラでとらえた画像から, 樹木の高さの抽出を試みる. 単純な条件(平地で, 樹木が1本だけ)での計測が可能かどうかを検証して, より複雑なシーンでの解析へとつなげる.
環境	21	池田幹男	インパルス等価信号を用いた音響インパルス応答の計測	音響インパルス応答の測定は、VR分野や建築音響分野において重要な課題である。現在、その測定のためには、青島のTSP信号を使用しているが、本研究では他のインパルス等価信号を使用することを検討する。特に、オールパスフィルタのインパルス応答を使用する。オールパスフィルタのインパルス応答を測定信号として使用することが可能であるば、用途に応じて、様々な測定信号を設計して利用することが可能であると考えられ、また、音響インパルス応答を求めるためには、時間反転した計測信号をオールパスフィルタに通すことによって可能となる。
環境	22	大八木麻希	三重県内の海岸及び河川のマイクロプラスチック分布傾向の把握	マイクロプラスチックは2014年頃から環境省の調査がはじまり、伊勢湾域での研究事例は少ない。そこで本研究では、海岸に漂着するマイクロプラスチック及び河川を流下するマイクロプラスチックについて主な種類とその割合を調べ、マイクロプラスチックの季節ごとの分布を明らかにすることを目的とした。
環境	22	大八木麻希	御池沼沢の水質特性	伊勢湾周辺の丘陵地には湧水による湿地が点在し、東海丘陵要素植物群の希少種が見られる特異的な湿地生態系を形成している。多くの湿地では希少種の保全を目的に植物の分布調査や除草作業が行われており、四日市市の御池沼沢植物群落もその一つである。御池沼沢植物群落は寒地性のヤチヤナギの南限地である西部指定地、暖地性のミクリガヤの北限地である東部指定地の二つからなりその重要性から1952年、国の天然記念物に指定された。水資源について、1950年代には西部と東部に自然湧水があった。しかし、現在では西部と東部ともに自然湧水は少なく、乾燥化が問題視されたため、人為的な地下水導入が行われている。しかし2つの指定地の水質形成には言及されていない。そこで本研究では、湿地形成に大きな影響を及ぼす水質特性を明らかにすることを目的とした。

学部	連番	氏名	研究テーマ	概要
環境	22	大八木麻希	北勢地域におけるマンボ灌漑の水質特性	三重県北勢地域には農業用水路として、江戸時代から素掘りのマンボが多く存在している。文化的な側面からの研究は多く挙げられているが、水質に注目した研究事例は少ない。そこで、本研究では上流と下流の調査地点を設けて水利用による水質汚濁について検討することを目的とした、
環境	23	小川東	東アジア数学史	1. 近世日本数学史 1-1. 『関孝和全集』(仮題)の編集(著作の校正など). 1-2. 『大成算経』の現代語訳, 英訳(科研費(森本光生)分担研究). 1-3. 『病題明致算法』の解説, 現代語訳. 2. 中国数学史 2-1. 朱世傑『四元玉鏡』(1303年)の解説.
環境	23	小川東	珪藻の研究	1. 珪藻の分類 1-2. 各地でのサンプリングおよびその珪藻相の記述. 1-2. 日本海産珪藻の分類. 1-3. 珪藻研究史の研究.
環境	24	片山 清和	大腸ガン患者のセルフマネジメントツールに関する研究	大腸ガンを手術した患者を対象として, 療養生活の継続を目指すために, セルフマネジメントを支援するためのツールを作成し, 運用可能性の検討を行う
環境	24	片山 清和	2型糖尿病のセルフマネジメントツールに関する研究	2型糖尿病のセルフマネジメントを支援するためのツールを, 2型糖尿病患者に使用してもらった結果を整理し発表を行う

学部	連番	氏名	研究テーマ	概要
環境	25	木村真知子	映像作品制作① 新たな映像表現への挑戦～VRカメラ活用のための立体装置の制作	現在、様々な新しい表現による映像作品が生まれ注目を集めている。また映像技術も新しいアイテム等によって可能性が広がり新たな表現へとつながっている。 今回はVRカメラを利用した新たな作品制作に取り組む。 VRは、今、観光や企業、教育など、現場にいなくてもよりリアルにその場面を体験できるものとして様々な業界で活用され始めている。 実際に行われている現場の再現ではなく、より夢のある作品制作を目指すものとする。 以前、卒業制作として「ドラえもん のび太の部屋」の制作を行ったが、現実では再現できない場面を設定しよりクオリティの高い作品の制作に取り組む。
環境	25	木村真知子	映像作品制作② 映像編集の指導のための資料動画の作成	映像作品を制作する上で、編集とは本来、作品一つひとつ、作家一人ひとり、異なる方法論や手法で行われるもので、そのやり方を教えることは非常に困難なことである。 ただ、その中には、イマジナリーラインや画面転換の法則など、守るべきルールや基本、法則といったものが存在する。映像編集の指導の資料として、それらを動画として制作する。 今回は、場所、場面紹介の基本の制作を行う。 場所、場面を紹介するためにはどんな映像が必要か、ナレーションを入れず映像だけで紹介するには・・・などの手法を紹介する資料映像を予定。
環境	26	黒田 淳哉	四日市市近郊の光害調査研究	四日市市近郊の光環境を把握する為に光害調査を行う。光害とは、町中の過剰・不適切な人工照明により引き起こされている環境問題である。昨年度は四日市市の明るい場所を中心に調査を行ったが、今年度は暗い場所も含め広範囲でのデータ収集を行い、全体的な把握を目的とした調査を実施する予定である。
環境	27	城之内忠正	決定論における解の分岐について	物理的な観点から世界を理解する試みは、我々の未来は創造出来るという経験的な世界観と著しく異なってしまう。例えば、世界観古典的な決定論の世界では、確率的な解の分岐は容易に発生する。しかしエネルギー等の保存則は満足されていると考えられるから、解の分岐は世界が多重に存在することを意味する。 本研究は、この世界観の違いが合理的なものかを考察する。

学部	連番	氏名	研究テーマ	概要
環境	28	関根辰夫	ファイルメーカーによる学生生活向上のためのカスタムソリューションの開発	ファイルメーカーというデータベースソフトを使用して、学生の日常生活に手助けになるようなカスタムソリューションの開発に関する研究
環境	28	関根辰夫	DAWソフトのプラグインの変遷について	DAW(デジタル・オーディオ・ワークステーション)のプラグインソフトは単純なものから複雑な機能を持つものまで多数存在している。そのプラグインの機能的な進歩や、またユーザーの嗜好や音楽のジャンルなどの変遷が、プラグインの変遷や新しいプラグインの開発に対して、どのような影響を与えてるかなどの研究
環境	29	田中伊知郎	人類に至る行動の進化	人類は社会的伝達など学習することが多い。それに対応するかのようにコドモ期が拡大している。比較調査のため、平成30年度の関係各所から調査許可を得た。平成31年度から具体的調査を始める見込みである。
環境	30	千葉賢	伊勢湾の貧酸素水塊発生現象の解明	伊勢湾の最大の環境問題は貧酸素水塊発生とその長期化である。その原因について、三重県との共同研究を含め、研究を続けてきた。過去3年間の研究テーマは次の通り。 平成28年度:①大規模生態系モデルを用いた、魚介類による植物プランクトン摂餌が貧酸素水塊の発生規模に与える影響に関する研究、②伊勢湾の海底堆積物の柱状コアの採取と、堆積年代、有機物量、有機物の分解速度などの調査 平成29年度:①海水中の栄養塩と有機物量の調査、有機物の分解速度、易分解・難分解有機物の分布・循環特性の検討 平成30年度:①湾中央から湾口にかけての海洋構造、特に中層に存在する植物プランクトンの種類と分布の調査、②広域総合水質調査データの分析、特に有機物量、栄養塩量、植物プランクトンのサイズ、種の変化等のデータ整理、③簡易生態系モデルと用いた豊かな海と貧相な海の遷移の研究 平成31年度は大規模生態系モデルを用いた豊かな海と貧相な海の遷移の研究を行いたいと考えている。

学部	連番	氏名	研究テーマ	概要
環境	30	千葉賢	伊勢湾の海洋ゴミの研究	<p>海洋のプラスチック汚染や、マイクロプラスチック問題が世界的な話題となっている。伊勢湾の場合、流木や灌木などの自然系のゴミも大きな問題で、これらについては三重県と共同で発生源・発生量の研究を進めてきた。過去2年間の研究内容は次の通り。</p> <p>平成29年度:ゴミが集積する答志島奈佐の浜に定点カメラを設置し、漂着ゴミ量の自動観測を行った。開発した漂流漂着ゴミのコンピュータモデルで平成29年10月の台風21号通過時の再現計算を行ったが、答志島への膨大な漂着ゴミの発生源は宮川等の三重県側の河川であることを明らかにした。また、安価なカメラを2台用いたステレオカメラを奈佐の浜の防波堤に設置し、漂着ゴミの体積の時間変化を測定した。</p> <p>平成30年度:①奈佐の浜と宮川河口の宮川大橋に定点カメラを設置し、漂流漂着ゴミの自動観測を行った。これに加えて、宮川流域の衛星画像、ドローン空撮画像、目視調査の3種類で、宮川流域からのゴミの発生量を推定した。②吉崎海岸、四日市港の海底、伊勢湾内外の海面のマイクロプラスチックを採取してサイズ別個数、種類別個数などを調査した。③漂流漂着ゴミのコンピュータモデルで7月豪雨時の解析を行い、ゴミの発生源が長良川と木曾川であることを明らかにした。</p> <p>海底の泥からマイクロプラスチックを分離・分画する方法を確立できたので、平成31年度は四日市港を含む伊勢湾の泥中のマイクロプラスチックの分析を進める予定。また、徐放性肥料プラスチックの分解実験を行い、分解速度を実測する予定。</p>
環境	30	千葉賢	里山環境の研究	<p>日本各地の里山で、管理不足による荒廃、孟宗竹の繁茂と竹林の拡大、大規模なナラ枯れなどが発生している。これらは里山の健全度を失わせ、生態系に影響を及ぼし、人が自然に親しむ空間を喪失させ、景観を悪化し、また倒木などによる事故の危険度を増加させている。美しい里山を取り戻すことは、地域活性化とも密接に関係している。また、荒れた里山に害獣が生息し、周辺の田畑を荒らすという被害も多発している。これらの問題に対処するため、学生とともに大学周辺の里山の調査を開始した。地上から樹種、竹林分布と密度、ナラ枯れ調査などを行う他、ドローンで上空からの調査も実施している。平成30年度は、大学キャンパスと八郷地区の里山の調査を実施したが、八郷地区の竹林の荒廃は予想以上だった。平成31年度は、八郷地区の里山の調査を継続する。また、ナラ枯れの原因であるカシノナガキクイムシの三重県内での分布調査を実施する予定である。</p>

学部	連番	氏名	研究テーマ	概要
環境	30	千葉賢	英虞湾の水質予報の研究	2004年度から2010年度まで三重県地域結集型共同研究事業を通じて英虞湾の環境問題に関わった。その中で水質予報に実験的に取り組んだが、精度の面で思ったような成果を上げることはできなかった。三重県水産研究所から水質予報の研究の再開について、共同研究の打診があった。研究を行う場合、過去とは違った水質予報のアプローチをとりたいと考えている。その中で、AI(人工知能)による水質予報に取り組むことも検討している。
環境	31	橋本幸彦	四日市大学に生息するタヌキの行動生態	四日市大学構内および周辺に生息するタヌキがタメ糞場に訪れるタイミングや頻度から、日周行動や、気象条件との関係について調査する。これにより生息地の喪失や分断化が野生動物に与える影響を検証する。
環境	31	橋本幸彦	鈴鹿山脈に生息するニホンカモシカの保護管理	鈴鹿山脈に生息する特別天然記念物ニホンカモシカは個体数の減少が指摘されており、保護が喫緊の課題となっている。しかしそれを実施するための具体的な生態情報が不足している。本研究ではカモシカの食性、家族関係、繁殖情報など、カモシカの保護に必要な基礎的な知見を収集する。また、これらの状況を普及啓発し、地域の方々と連携しながら管理活動を行う。
環境	32	廣住 豊一	竹林間伐材由来の資材を連用した農耕地における土壌物理化学性の経年変化	四日市地域は豊富な竹林資源に恵まれている。しかしその一方で管理を放棄された竹林が問題になっている。そこで放棄竹林対策の一環として、竹林間伐材を肥料化し、有用な資源として活用することを目指す取り組みが行われている。 本研究課題では竹粉の利用促進をはかるため、農地に対する竹粉施与による「土づくり」効果について現地調査によって調べる。平成31年度は、平成30年度に引き続き、三重県四日市市堂ヶ山町にある竹粉施与試験田において、田植え前(4月)および稲刈り後(11月)に土壌調査を実施する。そして、竹林間伐材から製造された粉末肥料を連用することによる農耕地土壌の物理化学性の経年的な変化について調べる。

学部	連番	氏名	研究テーマ	概要
環境	32	廣住 豊一	カラム実験による土壌間隙水中に含まれる栄養分の時間的空間的変動の把握	<p>水田土壌中の物質動態を把握することは、作物を栽培管理する上で重要なだけでなく、メタン・一酸化二窒素・二酸化炭素などの温室効果ガスの挙動を把握することにも繋が</p> <p>る。</p> <p>本研究課題では、土壌中の物質がどのように移動・変化するか調べるため、土壌を充填したカラムを用いたモデル実験を実施する。水田土壌を充填した実験用カラムの各深度から定期的に土壌溶液を採取し、この溶液に含まれる成分を分析することで、土壌に含まれる物質の空間的・時間的変化を調べる。</p>
環境	32	廣住 豊一	土壌中の養水分状態がトルコギキョウ花柄の挫折強度に与える影響	<p>トルコギキョウは花色・花形が豊富で、フラワーアレンジメントやブライダルなど幅広いジャンルで使用され、生花店でも大部分の店舗で取り扱いが見られるわが国の主要な花きである。トルコギキョウは、キク、バラ、ユリ、カーネーションなどと並んで花き市場において重要な地位を占める。一方で、花が大型化・重量化したことにより、花柄の強度に問題が生ずることが懸念される。</p> <p>本研究課題では、トルコギキョウの茎の強さを左右する要因を探り、花柄強度の高いトルコギキョウの栽培方法を開発するための栽培試験を実施する。平成31年度は、平成30年度に引き続き、土壌中の養水分状態がトルコギキョウの花柄強度に与える影響を調べる。</p>
環境	32	廣住 豊一	地温変化がトルコギキョウの生育・開花・切り花品質に与える影響	<p>花き類は光や温度の条件によって生育や開花が変化するものが多く、これらの条件を制御することで出荷時期の調整などを行い、周年出荷の実現や価格変動の低減などの工夫が行われている。トルコギキョウでも、高温に反応してロゼット化したり、花の色流れなどが生じることがある。</p> <p>一般的に温度制御に関してはハウス全体での調整を行うことが多いため、冷暖房のコストが大きな負担となる。これに対して根に対して局所的な温度刺激を与えることで、トルコギキョウの生育・開花制御ができれば、冷暖房のコストを大きく削減できる。そこで本研究課題では、地温制御によるトルコギキョウの生育・開花制御技術の開発を目指し、地温の変化がトルコギキョウの生育・開花・切り花品質に与える影響について、栽培試験によって調べる。</p>

学部	連番	氏名	研究テーマ	概要
環境	32	廣住 豊一	袋培地栽培トマトに対する亀山温泉「白鳥の湯」の施与効果	<p>平成29年度COC1人1プロジェクト「北勢地域の温泉資源を活用した地域ブランド農作物創出への挑戦」によって得られた結果に基づき、亀山温泉「白鳥の湯」を用いたトマト栽培の手法について、さらに開発を進める。</p> <p>平成31年度は、これまで2か年にわたって実施した研究結果をもとに、袋培地栽培および点滴かんがいによる栽培システムの構築に着手し、果実品質の向上と生産量の安定を目指した栽培試験を実施する。さらに収穫された果実に対する成分分析項目を増やし、有用成分の変化についてもより詳細に把握できるようにする。</p>
環境	33	Eric Bray	Using Proverbs to teach about Culture	This year I plan on doing further research on how proverbs can be used in the classroom to help students better understand their own culture well as other cultures in the world.
環境	34	山本 伸	近代社会における社会歴史的 Intersubjectivityの研究:カリブと沖縄をフィールドに	<p>31年度は、これまでのカリブ海地域および沖縄文化に共通する「土着性」についての研究をさらに絞り込んで、大衆の意識のなかに共有されるintersubjectiveな価値観がどのように伝播、継承されてきたかを、カリブ海および沖縄の文学テキストおよびフィールドワークから探る。そのために、これまで同様、カリブ海地域と沖縄の文献調査・収集および現地でのフィールド調査を積極的に行うこととする。とりわけ沖縄の社会や文化に関しては、懸案である『クラクションの聞こえない街—沖縄文化試論(仮)』の書き下ろしを一冊実現させるべく、FMラジオ(FMよみたん、FMレキオ、FMコザ等)や大学での授業(沖縄国際大学/院の集中講義)等を活用して、沖縄のコミュニティ、社会、哲学、価値観等を継続していくこととする。</p>
環境	35	吉山青翔	日本人を学習者とする中国語教授法	<p>外国語としての中国語は文法が英語のように整然と体系化していなく、教授側にとっても学習側にとって、うまく説明がつかないところが多い。自分が長年中国語応用編を担当してきたが、現実行中のカリキュラムで基礎中国語(ゼロからスタートする)を担当することになり、始めて中国語の文法問題に直面した。現実行中のカリキュラムがスタートする前の年度から「基礎中国語」用テキストの編集に取り組んだが、うまく行かなかった。2018年度の後期から、それまで完成した「基礎中国語」の原稿を廃棄し、ゼロからやり直し始めたのである。具体的なプロセスは下記のとおりである。1)一般言語学・対照言語学・応用言語学の視点から中国語の特徴をさぐる(一応終了)、2)日本人を学習者とする教授法を焦点に当てて、英語の文法体系を参照にし、中国語・英語・日本語の特徴を比較的に検討し、外国語としての中国語文法体系を再構成する(現在進行中)、3)2019年度で、「基礎中国語」テキストの完成を目指し、どこかから出版補助金をいただけたら、出版する。</p>

学部	連番	氏名	研究テーマ	概要
環境	35	吉山青翔	エレン・H・リチャーズ環境思想の研究	これは僕が長年かかわっている研究である。エレン・H・リチャーズ(1842～1911)、アメリカの歴史上、初めて理学士号を取得できた女性で、近代環境科学・近代家政学の創始者、エコフェミニズムの始祖とも思われている。これまで、途中の研究成果として、論文の形で多数公表してきたが、一つの研究課題の総括として、著書の形での公表を目指している。その一環として、2018年5月12日に、日本科学史学会東海支部第111回例会(愛知県労働会館)において、「エレン・H・リチャーズはエコロジーを創始したのか～エレン・H・リチャーズの環境思想と人物像を中心として～」というタイトルで、約1時間半の総合報告をした。そもそもこの研究に、エレン・H・リチャーズとエルンスト・H・ヘッケルを中心に、比較思想史の手法を用いて進めてきたが、現在は最後の完成に向かって、女性・科学・環境を軸に、全体的に検討している段階にあるが、どこかから出版補助金を得て著書としての公表を狙っている。
環境	35	吉山青翔	女性の幸福の構造	「女性の幸せとは何か、美人に生まれたことか、結婚していい旦那、いい子をもつことか、事業の成功か」、これは長年、男性としてのぼくを苦しめている疑問だが、いま、一応一つの研究の形として考えることになってきた。2019年度の研究課題<1・2>に対して、このテーマはまだ準備段階にあるに過ぎなく、今年度も文学の専門家にくっついて文学作品を通して女性の喜怒哀愁を探ってみる。

学部	連番	氏名	研究テーマ	概要
経済	36	David Dykes	Planned research area 1: Language of Social Risk	<p>This is an area of study I have been following since 2014, originally in a team project (「社会リスクの見える化」) for the University's COC programme. I am examining the wording of public notices and instructions associated with hazards, hazardous activities, or measures against hazards.</p> <p>Plan: As a follow-up to an oral presentation I made last October to the Japan Association of Systemic Functional Linguistics I intend to submit an expanded version, "The A.L.I.C.E. response programme in schools, and the 'lockdown' context to which it is tied", as a paper for the Association's publication "Proceedings of JASFL" (for publication in October, 2019). This will look critically at the increasing use of the term 'lockdown' as a concept in responding to certain kinds of emergencies including armed attacks from outside. A lockdown drill can enhance the efficiency with which groups of people find shelter, but may also lead them to becoming trapped if the emergency evolves in a way not planned for. Multiple preparations, monitoring, and continuous information exchange are therefore needed, together with some final allowance for individual initiative taking. Both a fixed name for an emergency drill ('lockdown') and the use of a fixed-order acronym ('A.L.I.C.E.' = Alert - Lockdown - Inform - Counter - Evacuate) could suggest that a single manner and order of response to an emergency is always best. This is not the case, and namings of these sorts should be used with caution.</p>

学部	連番	氏名	研究テーマ	概要
経済	36	David Dykes	Planned Research Area: 2. Characters, Roles and Expression in Juvenile and Fantasy Literature	<p>This is an area I last treated in 2014, in a cross-culture symposium on fairy tales (Tokai English and American Literature Society, 2014 Conference). I plan to extend that research in 2019 through three activities.</p> <p>(1) For June, I have been requested to give an address on Japanese and English children's tales to the Kariya City Local Culture Research Society (刈谷市郷土文化研究会), comparing a theme of animal intrusions into the human order of life and vice versa, in tales from the nearby area (Niimi Nankichi's fox tales and Mori Saburo's "The Cat who Turned into a Hat") and in successive transformations of "The Three Bears" tale in its English origins (Robert Southey, 1837) and Russian offshoots (Lev Tolstoy, 1872). The focus will be on how far the tale is told from an animal viewpoint and how far from a human one, and how this evolves.</p> <p>(2) Later, I intend to pursue specifically linguistic aspects of this kind of intrusion tale in an analysis of character roles and speech exchanges in fantasy and animal stories by Arikawa Hiro ("Daremo ga shitte iru chiisa na kuni" (2015) and "Tabi-neko ripo-to" (2011)). I hope to present the results to the October Conference of the Japan Society of Systemic Functional Linguistics.</p> <p>(3) In the winter, I hope to pursue further a subtheme of "changes in fortune through the interplay of perceived intrusions of luck with personally-based values in life". My main text for this will be the novel "Le chapeau de Mitterand" (Mitterand's Hat) by Antoine Laurain (2012), but fitting in comparisons with other 'talismans' tales such as "The Cat who Turned into a Hat" (above). I mean to submit this paper to the January issue of the Foreign Language Institute journal at Aichi Gakuin University.</p>
経済	37	岩崎祐子	地域金融機関のビジネスモデルに関する研究	<p>地域金融機関を取り巻く経営環境は厳しさを増している。人口の高齢化と少子化が進む地域においては、サービス業の生産性向上などの観点から経営資源の「選択と集中」が求められることになる。本研究では、従来型の経営戦略・収益構造から新しいビジネスモデルを目指す地域金融機関について、現状を整理し今後の課題を考察する。</p>
経済	37	岩崎祐子	「おもてなし経営」に基づく企業経営に関する研究	<p>平成30年度に公共政策研究所として受けた三重県の受託調査(「三重のおもてなし経営企業選」受賞企業フォロー(調査・分析等)事業、岡先生、奥原先生、岩崎担当)を発展させたかたちで、「おもてなし経営」企業の特徴を明らかにし、おもてなし経営と業績との関係を考察する。</p>

学部	連番	氏名	研究テーマ	概要
経済	38	牛島 謙	研究用データベースの構築とデータの整備	<p>大学は「知の拠点」たるべきである。そのためのデータベースを構築することを研究目標にする。ブックページ用の独自の汎用システムはWAMP(MySQL+PHP)環境下で開発済みである。そのシステムを利用してデータベースを構築している。ページ検索の機能が重要であり、詳細目次検索や全頁検索機能が利用できる。また、有益なウェブサイトの情報も検索可能になっている。昨年度からは雑誌の総目次をデータベースに収録することを開始した。データベースの概要は、全頁収録済み冊数が7,260冊、詳細目次DB登録冊数が5,197冊、全頁DB登録頁数が470,356ページである(2019/04/15時点)。</p> <p>このシステムを利用する本年度の研究テーマは3つである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 インターネットの歴史およびデザインに関するデータの更なる整備</li> <li>2 インターネット企業に関するデータの更なる整備</li> <li>3 優良企業・倒産企業に関する雑誌記事のデータの更なる整備</li> </ol> <p>1と2は継続のテーマであるが、その基底には日本の社会はインターネットを理解することに失敗しているという認識がある。</p> <p>3も継続のテーマであり、今年度は雑誌記事のデータを整備することを目標にしている。主要な雑誌について総目次検索ができるようになる。また、最近、企業倒産に対する社会的な関心が高いので、そのデータの整備も進める。</p>
経済	39	杉谷 克芳	1950年代後半における、初期スーパーの成立過程	米子西部生協の影響。岡山県津山市における反生協運動と初期スーパーの誕生、1953年～1956年における小売業のセルフサービスの導入、主婦の店運動とスーパーマーケットの普及、三重県におけるスーパーマーケットの誕生
経済	39	杉谷 克芳	ベトナムへの日系企業の進出の現状、ベトナムにおける大衆消費社会の成立	ベトナムへの日本企業の進出の現状を調査する。伝統的な市場(いちば)とスーパーマーケット、コンビニとの関連を中心にベトナムの流通革命の現状を調査する。

学部	連番	氏名	研究テーマ	概要
経済	40	李 修二	1920～30年代の国際経済会議と国際連盟	<p>今年度は、とりわけ、1920年代および1930年代の主要な国際経済会議において国際連盟がどのように関わったかに焦点を当てて、その歴史を再構成する研究を行う。当時の主な国際経済会議は、1920年ブリュッセル国際経済会議、1927年ジュネーヴ世界経済会議、1933年ロンドン世界通貨経済会議などである。これらの国際経済会議は、特にアメリカなど幾つかの重要な連盟非加盟国も参加して議論が進められたので、これらの国際経済会議の顛末を見ることは当時の具体的な国際経済情勢を理解するのに大いに役立つ。そして、また、これら国際会議では水面下で国際連盟経済金融機関が活躍したことが判明しており、そうした、この機関の活動の内容を考察することは、広く、当時の世界経済史の流れを跡付ける研究において、一つの有効な着眼点をもたらさうはずである。</p> <p>関連論文： 拙著「国際連盟による経済的事業の歴史について—研究動向」四日市大学論集、第31巻2号、2019年刊、所収。</p>